

な。東北の方は、いつもおいしいご飯をたくさん食べておられる。何度もおかわりするのには気が引けるものだから、きつく盛り付けてあげなさい。京都の方は少食なので、無理されてはいけないから軽く。九州の皆さまは普通でいいな」と言われたそうです。相手に応じて細心の計らいをするのが幸之助さんのもてなし方だったそうです。「接客の基本は、かゆいところに手が届くような心配りをするることである。皆に満足を与えたいという考え方をもってないと、人をお呼びする資格はない」と言っています。

京都の真々庵に来客があるということで、社員が座敷に準備を整えました。いつものように幸之助さんは、等間隔にきちんと並べられた座布団を一つひとつ「ここはAさん」「次がBさん」と順に指さしながら確認していきます。そしてFさんのところで立ち止まり、「この座布団両方のあいだをもうちょっと開けてや」

「ちゃんとならんでいるのに…」と社員が困惑していると、幸之助さんは「Fさんな、かなり肥えてはるねん」と言って笑ったのでした。

昭和33年5月、工場建設の候補地を検分するため、神奈川県湘南地区を訪れたとき、辻堂工場の責任者Y氏と蓄電池工場の責任者I氏の案内で、数か所を回り終えたのが昼の12時過ぎでした。「きょうは天気もいいから、海岸で昼食を食べよう」幸之助さんはそう言って、車を稲村ヶ崎へと向かわせました。「ゆうべ新橋の寿司屋に握りを五人分つくっておいでくれと頼んでおいたんや。今朝、出しなに持ってきた」

磯の香りのする波打ち際にごさを広げ、秘書のU氏が折り詰めを配ろうとしたとき、幸之助さんが声をかけました。「きみ、そのうちの二つの小さな紐で印がしてあるやろ。それが関東味できみら二人(U氏と運転手)の分、あとの三つは関西味でY君とI君とわしの分や」

だれに対しても配慮を怠らなかつた幸之助さんに感動させられるエピソードでした。幸之助さんのきめ細やかな心配りは、長い人生経験の中で、あらゆる機会を通じて身につけられた対人対応の賜物でしょう。見習いたいものです。

### 「小さな積み重ねが御縁を深める

鎌田善政社長



仕事においてトラブルはつきものですが、万が一の事を考えて事前に対処しておけば、問題が起きても最小限に留めることが出来ます。工事をするにあたっては近隣の方々のご理解とご協力が必要不可欠ですので、特に第三者の方に損害や迷惑を掛けないように細心の注意をして下さい。

おかげ様で各方面から色々とお仕事のお話を頂いておりますが、常に上を目指して工夫をし、仕事の能率を高める努力を続けなければ、5年後、10年後の会社の存続というのは確信できません。年を重ねると必然的に体力は落ちてしまいますが、気力だけは失わないように、また一人一人が経営者になったつもりで会社をアピールすれば仕事のチャンスはいたるところにあります。先日も5名の方と名刺交換をさせて頂きましたが、すぐにお礼のハガキをお出しました。こうした小さな積み重ねが御縁を深めるきっかけとなります。

まだまだ暑い日が続きますので、体調管理には十分注意して、絶対に事故を起こさないように頑張ってください。

### 「相手に合わせた配慮とは…」

鎌田安典専務



PHP 9月号に「相手に合わせた配慮を」と題し、松下幸之助さんのエピソードが載っていたので紹介します。

松下電気が京都の料亭に全国の得意先を招き、宴席を設けたとき、下見に来た松下幸之助さんは準備をしていた社員に「ご飯の盛り付けに注意して